

たんぽぽだより

2026.6

始良市立加治木幼稚園

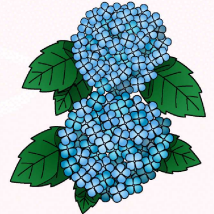
Tel: 62-2502

Fax: 62-2524

「もらうことと与えること」

加治木幼稚園長 川畑 敏彦

雨の日のお帰りのあいさつでの出来事です。あいさつが終わった後、靴箱に移動しようとする際に、きりんさん、うさぎさんはじっとしています。しばらくすると「りすさん、お先にどうぞ！」というかわいい声が聞こえてきます。自分たちより年少のりすさんたちを先に行かせようとする心遣いに、胸が温かくなります。きっと、自分たちもりすさんの時には、同じような経験をしているんだろうと思います。他の人のことを考えられる、思いやりのある行動が続いていることにとても嬉しい気持ちになります。



人は、「もらう」ことから始まり、やがて「与える」側になり、最後は「与えられる」立場になると聞いたことがあります。生まれておっぱいを飲ませてもらい、入学してランドセルを買ってもらい、お弁当を作ってもらい、それが15年から25年くらい続きます。その後は、独立して子供を養育し、年老いた親をかばい、育つ環境で受けたことを返していく「与える」側に回ります。それを何十年か続けると歳をとり、子や孫や社会から「与えられる」立場になります。

人が一人前になるためには、何歳になろうと誰かに何かを与えている人でなければならないと思います。人は求めているだけでは生活は完成していきません。赤ん坊の時は「求める」だけでよいのですが、大人になるということは「与える」力を持つということで、求めたものは次は与える立場になるということを自覚させなければいけないのです。

最近、気になるのが、試合後のインタビューで「これまで支えていた皆さんのためにプレーしました」ということをよく聞きます。感謝の気持ちを持つことは大切なことですが、それだけでは「試合で立派なプレーをすることで、支えられていることへの恩返しが出来ているんだ。」という勘違いをしているのではないかと心配になります。

子供たちにも「感謝の心を持ちなさい。あなたはみんなに支えられているんだよ。」ということを伝えることは大切ですが、それ以上に、『早く「自立」して身の周りの人や社会に与えられる立場になりなさい。』ということをきちんと伝えていくことが大切なのではないでしょうか。

本園の大きな目標は、子供の「自立」です。そのためには、様々な方々から「与えられたこと」に感謝するとともに、いつかは自分が与えられる立場の人になるんだということに気付かせることが大切です。

私も保護者の方々も本校の職員も今まさに「与える」立場にあります。子供たちや保護者、職員、地域、自分の親……。に何を与えられるのか、何を与えるべきなのか、しっかりと考えていきたいものです。



【5・6月の行事紹介】

< 錦江幼稚園との交流会 > 5月28日



錦江幼稚園のお友達と楽しく遊びました！



最後はみんなで、はいポーズ！



< カレーの日 > 6月3日



りすさんはキュウリの塩もみ、うさぎさんはフルーチェ作り、きりんさんは野菜を切って、みんなで協力して作りました。

< 交通安全教室・ドレミファらんど >



交通安全の「ぜん」ちゃんに来てくれました！



今年は、第1回目のドレミファらんどとして開催し、たくさんの子供たちが参加してくれました。横断歩道の渡り方もばっちりです！

< 泥んこ遊びと田植え > 6月17日



みんなで泥んこ遊びをした後に、育てた苗を植えました。美味しいお米ができるといいね！



< 楽しい楽しいプール遊び！ >



準備運動もばっちり！



りす組さんも初めてのプールを楽しんでいます。

顔に水がかかって、もへっちゃら！



一緒に泳ぐと楽しいね！

